

# ASAP

あきる野多摩川学園カンボジア校  
**カンボジア通信**  
NPO 法人アジアの子ども達の就学を支援する会 (ASAP)



タットム校にスーパー井戸完成

2011. 10

- 第14回視察訪問・第4校舎寄贈の報告  
長谷川 理事長…P1
- 5年ぶりのカンボジア 住本 典之・和佐…P2
- タットム、トロク校の様子…P3
- スーパー井戸ついに完成…P4
- 支援ツアーに参加して 安斎 美果…P5
- 先生・お母さんにインタビュー…P6
- Mother to Mother 報告…P7～8
- コールタメイ村に小学校校舎寄贈決定…P9
- 23年度通常総会のご報告…P10～12

Vol. 8

## 第14回視察訪問・第4校舎寄贈の報告

理事長 長谷川 安年

去る8月20日(土)～24日(水)第14回支援ツアーを理事5名を含む計10名にて実施し、タットム校新校舎および深井戸の寄贈式、コールタメイ村視察を行って参りました。皆様からの浄財を確実に現地の教育支援に充当させて頂いた事をご報告し、改めてご支援に深く感謝申し上げます。

当初(6年前)の私個人の寄付を含め今回4校舎目の落成寄贈となりましたが、校舎が建ち感謝の気持ちは大変伝わって来る反面、その後村や寺が学校の校舎の維持に努力しようという意識があまり感じられないという点がとても気にかかります。支援を押し付けるつもりはありませんが、「大切に使う」という意識を持つ事は教育上大切な事ですし、ASAPの支援がずっと続くわけではない事を踏まえて自己運営力を高めてほしいと切に願います。

その一歩として、国からのお給料が30\$か

ら100\$に上がったこともあり、今期より教師個人に支給してきた月々30\$の『教育支援金』の一部10\$を学校に支給し、学校の運営に当ててもらおう形に移行しました。個人のお給料が少々減ることになるので、先生方は苦笑い状態でしたが、趣旨は理解して頂けたと思います。

「学校ができるのが村の夢」というコールタメイ村が次期支援先に決定していますが、村や地域の将来を担う学校と一緒に守っていくという意識を、村民達に持ってもらえる様働きかけながら支援を進めたいと思っています。

『貧困の子ども達に就学の道を』というASAPの理念に賛同頂き支援くださる皆様の思いを、現地に届ける努力を続けていきます。

その活動内容をお伝えするためにカンボジア通信 Vol 8 を発行します。どうぞ引き続きのご支援をお願い申し上げます

### 新校舎落成式の様子



校長先生と理事長のテープカット



寄贈した3教室の新校舎



教室を分けられるように工夫しました



まだ机だけが並ぶ殺風景な教室



在校生が踊りを披露

## 5年ぶりのカンボジア

理事 住本 典之・和佐

私達が初めてカンボジアを訪ねたのは2006年3月。長谷川安年先生が NPO 法人 ASAP を立ち上げる以前、先生ご夫妻が初めての寄贈したトク小学校校舎落成式に同行させて頂いた時でした。私共も2001年ころから同様の他の NPO 団体に共感し賛同援助を行っていましたので当時、長谷川先生からのお話しには即答で賛同させていただき 以来、微力ながら理事としてもお手伝いをさせて頂いております。今回出発前の私達は以前のカンボジアのイメージから様々な面において心構え？覚悟？勢いを持って向かいました。ところがシムリアップに足を降ろした瞬間からその気持ちは驚きと喜び そして少しの安堵感に変わりました。空港はお洒落な空港らしいデザインになり税関職員の制服も一新。道路も少しずつ整備され一つしか無かった信号機 数か所に増え交差点に輝いておりました。スーパーやホテルが建ち並び以前とは比べ物にならない程の発展が私達を迎えてくれました。国として国民として意識改革が多くの支援や努力と共に育ちつつあることを感じました。

しかし、一歩郊外に出るとまだまだ以前と変わらない荒れた殺伐した景色。あるいは以前より不安定な生活状況がありました。ほんの中心部の一部だけが見た目だけ発展した様に思え根深い課題を感じました。そして課題は初めて寄贈した校舎や井戸にも見られ改めて支援、指導の難しさを学んだ時と成りました。たった数年のうちに色が剥げ落ちボロボロと思うほどの校舎。使い始めて直ぐに壊れてしまった(使い方が雑で壊してしまった?)ののではと思われる放置された井戸。危険の多いままの通学路など とてももったいない気持ちでした。良い状態で保つ意識、修理や改善しようとする意識や技術が経済的力の無さからかとても低い事と言わざるをえません。教育を受けた者と受けない者との違い？生活格差の激しさに驚きました疑問さえ覚えました。

日本の他の団体は勿論、他国からの支援も多くある中でカンボジアは少しずつ成長している事は喜ばしい事ですし必要だとは思いますが、カンボジアの大自然には似合わないニョキと建った高い電波塔や日本でもおなじみの高級車が往来していたり、電気、ガス、水道の無い竹を柱としヤシやバナナの葉を屋根にした家に住みながらアイ・フォンやパソコンを使いこなす姿。服もみずぼらしく靴もはいていない少女がティッシュペーパーの様にポケットの中へ札束を押し込んでいる姿。支援と実生活とのギャップどころではない違和感を覚えました。土台から少しずつ実生活に合わせた積み重ねの支援の重大さを感じずにはられませんでした。

そんな中でも学校で通えるようになった子ども達の笑顔や少しずつ身につけつつある礼儀、私達を信頼し近寄ってくる姿が救いでした。

最後にこの様な今回の訪問から私ども夫婦は、以前とは違う喜びと共に驚きと疑問を多く感じ今後の支援活動の課題として皆様と共に考えて行けたらと願っています。



「ぜひ学校に行かせてください」という現地飛び入り参加の若者も加わり、ツアー参加者全員集合



## トロク、タットム小学校の様子

校舎を寄贈することだけでは最貧困の家庭の子どもの就学にはつながらない、ということから「先生の確保」「制服の支給」「最低限必要な教材支援」など年2回の現地訪問支援を続け5年がたちました。最近、支援ツアーで初めて両校を訪れた方たちから「思っていたよりも整っている」という感想をいただくことがあります。**これぞASAPの支援の成果と思います！！**

- ◆ヤシの葉の校舎はコンクリートの校舎になり、雨で授業が中断されることがなくなりました。
- ◆教室が増え、子どもたちが椅子にギュウギュウ詰めの状態もなくなりました。
- ◆水の出ない井戸はなくなりました。
- ◆教科書は一人一人にいきわたり、4～7人で一冊を使うことがなくなりました。
- ◆子ども用ファイル、画用紙、管理用ノート、など最低限必要な教具や教材が整い、授業がスムーズに進められるようになった結果、子ども達が学校を楽しみにするようになりました。
- ◆生活費を稼ぐために辞めていたり、途中で帰ってしまったりしていた先生が生活を心配せずに学校教育に専念できるようになり、先生不足も解消しました。
- ◆制服が買えないから学校へやらない、ということもなくなり、未就学児童がゼロになりました。
- ◆最貧困家庭への仕事の提供で、中退者が少しずつ減ってきました。

表面的なことがやっと整い、学校らしい運営が行われ始めたという段階です。ここからは自主運営にむけての道を模索しながらの支援内容に切り替えて支えていく方針です。一方、**次期学校校舎寄贈が決定したコールタメイ村は5年前のトロク、タットム小よりも支援を必要としている状態です。**コールタメイ村悲願の学校が誕生し、村の就学率が改善される様ASAPならではの支援を行って行きたいと思っています。(コールタメイ村についてはP6に詳細)



葉っぱの教室が



きれいな建物になりました



雨漏りする薄暗い部屋でした



明るいけど机だけが並ぶ教室で



個人ファイルやポスターが整いました

# スーパー井戸 ついに完成!!



『壊れたら放置して次のを掘る』こんな理由でカンボジアの学校の校庭には、使えない井戸が点々とあります。その多くは外国からの支援によるものです。こんな実態を支援した方々は知る由もありません。知ってしまったからには、同じことを繰り返すわけにはいきません。タットム小学校の井戸が壊れたのを機に、設計から手がけたスーパー井戸が完成しました。  
(全体の写真は表紙をごらん下さい)



- ◆ **30mの深井戸なので、飲める水が出ます!**  
(通常の井戸は7~10mほどで水は濁っています)
- ◆ **タンクを使うことにより、蛇口をひねれば水が出る「水道機能」を実現!**
- ◆ **同時に何人もが手を洗えるように複数の蛇口!**
- ◆ **なんと、トイレで手を洗えるようになりました!**

設計段階で一番問題になったのは、タンク内の水質をいかにきれいに保つかでした。

せっかく飲める水質の水が出てもタンク内が汚くて、ためることにより、飲めなくなってしまうのであれば元もこうもありません。そこで、タンク内の水をトイレに強制的に排出し常に新しい水を保つ方法を考えました。トイレの水桶にタンクの水を使えば、毎朝何十分もかけてトイレまで水を運ぶ必要もなくなり、一石二鳥! 恐らく井戸の管理など、この先問題点も出てくることでしょう。ここからはASAPの底力発揮で、現地事務局員の巡回や年2回の訪問で乗り越えていかななくてはなりません!!

**子ども達の健康を守る  
ために衛生教育を徹底  
してくださいね!!**

(とお願いしてきました。  
校長先生がんばって!)



## 支援ツアーに参加して

安斎 美果

わたしは今回、はじめてカンボジアという国に行きました。私が実際に行ってみて思った事は、電気も水道もないシンプルすぎる暮らしの中で、彼らの笑顔が一際目立っていたなあという事です。



彼らには彼らの日常があり、私たちからすれば不便ながらしかし、生活が成り立っていて、正直一時は、支援はいらないのではないかとすら思ったほどです。しかし、途上国と呼ばれないため、自立するためにはやはり教育、衛生面など徹底することが必要で、それが"発展"の土台を築くことなのだと思います。今回同行させて頂き、ASAPの活動はまさにその部分を抑えていると感じました。井戸の提供や、mother to motherを通しての就学支援は、彼らの抱える問題の根本を考えた活動だと感じました。特に、mother to motherの活動はすばらしいアイデアだと思います。というのも、実際にリアルな村の生活をのぞき、カンボジアのお母さんたちが子ども達を学校へ送る資金を貯める機会は、mother to motherの他にはなかなかない、と改めて思ったからです。私は東京に帰ってきてからも、(自分たちが載っている)新聞の記事を見たときのお母さんたちのよろこぶ顔が忘れられません。

与えるばかりではなく、どうしてこうするのか一緒に考えること。目の前の問題だけでなく、その先を見つめること。今回わたしが学ばせていただいたことです。

長谷川理事長をはじめ、ASAの皆様、貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。

## 白熱!! ドッジボール大会



参加した6人の若者が、前回に引き続きトロク小学校の子ども達にドッジボールを教えました。前回2月に初めてドッジボールを知った子ども達ですが、自分たちでも続けてきたようで、今回は「マジ怖いボールが飛んでくる」と日本の学生を怖がらせたほどでした! ルムチェック村にドッジボールが根付いたら、それは君たちの功績です☆☆



## 卒業アルバムをプレゼント

自分の写真をほとんど持たない子ども達へ、6年生まで学校へ通う目標の一つになればと、4年前から始めた「卒業アルバム」のプレゼントを今年も行いました。友達や先生たちまで載っているアルバムを受け取り、恥ずかしそうに眺めている姿が印象的でした。製作の中心となっていた池田理事のご事情と、サポートして下さっていた留学生が就職して東京を離れたことから、これまでのように手の凝ったものが難しくなりますが、来年度より「特製卒業写真」という形で続けていきます。

チェムリアッフスオ！（日本語で「こんにちは！」）

### トロク小学校の主任先生に聞きました ソム・ノン先生（25才 教師歴5年）



両親と兄弟の7人家族です

#### ASAPの支援で学校はわかりましたか？

（制服や貧困家庭への支援があるので）子ども達が学校にくるようになりました。紙などの文房具などが整っているので楽しく来ています。

#### ASAPからの教育支援金はどのように使っていますか。

生活が安定して、妹は中学に、弟を大学に行かせることが出来ています。

#### 将来の夢はありますか

自分も高校に行って高校卒業資格をとりたい（中学卒業後数ヶ月の教員養成コースに通っただけなので）

#### 日本に対するイメージを教えてください

すごく発達した国だとおもいます。

### Mother to Mother のお母さんに聞きました カク・リンさん（37才）



#### Mother to Mother で変わったことはありますか

すごくあります。子どものことがすごく変わりました。鉛筆や洋服が買ってあげられて皆学校へ行っています。

#### 子どもは何人ですか

4人で、16才、小3、小1、幼稚園です。

#### 仕事は大変じゃないですか？

はじめはやり直しもあって大変でしたが今ではやり方がわかったので大丈夫です

#### ASAPが学校にしている支援を知っていますか？

全部はしりませんが、学校がきれいになったりして嬉しいです。

# Mother to Mother 報告

お母さん達本当に変わりましたね。

初めは、この人たちが本当に縫えるのか…と思いましたが、

今はこんなに明るく、身なりもきれいになりましたよ。

なんととっても自分達の考えを発言するになりました。本当にすごい変化です。

～現地事務局員コンさんの言葉より～



寄付の布を使ってカンボジアのお母さんに作業用エプロンをプレゼント。  
初めてのエプロンに皆大喜び！！

お母さんの視点に立って始めたこんな小さな活動を支えてくださった皆様のおかげで、始めて3年、朝日新聞掲載というビッグニュースの後、届いた寄付の布のダンボールは300箱近くになりました。中には『素敵な活動をありがとう。ぜひ続けてください』『Mother to Motherという言葉が良いですね』『これからも応援します』などの沢山のメッセージや寄付金が同封され、継続するパワーを頂きました。北は北海道、南は九州の全国の皆様、本当にありがとうございました。どうぞこれからも応援宜しく願います。

## タットム小学校4・5年生中退者ゼロ！

**ゼロ!!**

カンボジアでは基本的な読み書き計算を終えた4年生以上の中退者率が38%とかなり高く、国の問題になっています。そういった中、なんと**今年タットムの4・5年生中退者がゼロと報告がありました**。トロク小学校は18人です。トロク小学校の方が在生が多いとはいえ、『ゼロ』とは！！Mother to Motherの影響がすべてとはいえないと思いますが、『子どもを学校へ行かせる費用（子どもが学校へ行っていることが）』が条件のこのプロジェクトの効果の手ごたえを感じた報告でした。



## 協力園が全国 14 園に！新しくトロク小学校のお母さん達 10 名参加！

多摩川幼稚園だけでは販売数に限りがある為、他の保育園や幼稚園に支援の協力を働きかけてきました。新聞掲載がきっかけとなり現在 14 園になり、販売数を増やすことが出来ました。そのため 9 月からトロク小学校のお母さん達 10 人が加わりました。トロク小学校の中退者ゼロを目指します！

多摩川幼稚園(あきる野)	至誠第2保育園(立川)
さくら木保育園(あきる野)	明照幼稚園(神奈川)
あすなる保育園(あきる野)	むぎの穂保育園(大阪)
常盤が丘幼稚園(杉並)	天徳寺幼稚園(金沢)
多摩平幼稚園(日野)	光の子保育園(京都)
松原保育園(昭島)	みそら幼稚園(兵庫)
かしの木幼稚園(立川)	若竹元町保育園(所沢)

## 毎月第3木曜日 1:30~4:30 のボランティアの日 (会場 多摩川幼稚園)

小物を販売するまでには、裁断、洗濯、アイロン、紐通し、ゴム通し、と沢山の手が必要になります。この活動を支えてくれているは多摩川幼稚園の職員と十数名のボランティアの方々です。時にはご家庭に持って帰って作業を下さっています。ボランティアの存在なくしては成り立たない Mother to Mother です。感謝！感謝！もしボランティアとして一緒に活動して下さる方がおりましたらご連絡下さい！猫の手も借りたいほどなので大歓迎です。

## カンボジアの子ども達に会いに行きませんか？

**カンボジアの小学校にはカバンが無くても  
スーパーのビニール袋を通学カバンにしている子がたくさんいます。  
その子ども達に布のバックをプレゼントしたらどんなに喜ぶでしょうか！  
頂いた布で手作りバックをプレゼントする計画をスタートさせます。  
一緒に布を運んでくださる方募集中！！**

今期学校建築を計画しているコールタメイ村の校舎寄贈式で、寄付の布で作ったバックを子ども達にプレゼントする事を計画しています。しかし残念ながらプレゼント用の布を運ぶ人出が足りません！ASAPでは、年に2回「支援ツアー」を実施しています。参加費用の中から1万円を支援金として寄付頂き、世界遺産のアンコールワット遺跡観光をはじめ、支援校を訪問し子ども達やお母さん達との交流する充実した内容です。さらに「運び屋?!」としての大きな役割も担っていただきます。毎回4~5日間の日程で13~14万円で行っています。観光、寄付、交流、と楽しく充実した支援ツアー、ご一緒しませんか？■次回予定 24年2月19~24日

★090-4968-4198 (大沼) までお問い合わせ下さい★詳しくは別紙にて★

不足資金100万円が集まりました！

# コールタメイ村に小学校寄贈決定！！

村に学校ができる！



村に小学校を作るのが悲願のコールタメイ村に、学校を贈ろうと寄付を呼びかけて下さった支援者の皆様のお陰で、2月から半年の間になんと100万円が集まり寄贈が決定しました！（スゴイ！）建築決定の報告に村を訪問すると、村人大勢がスコップや鍬で建設予定地を開墾しているところでした。**女性も力仕事を続ける姿に、村の学校建設に対する思いが伝わってきました。**土地の開墾にとどまらず、学校建築工事にも積極的にかかわってもらい、建築後一緒に学校運営を支えてもらえることを村人に確認しました。着工予定は24年1～2月です。

コールタメイ村の奥に足を伸ばし見た風景に胸が痛くなりました。

父親が亡くなり、母親が出稼ぎに出ている孫3人の面倒を見る年おいた祖母。家には「物」がほとんどなく、スーパーの袋が一枚大事に壁にかけてありました。

11歳という男の子は貧しい食事のせいかわ日本の3年生ぐらいにしか見えず、学校は2年生で辞めているそうです。ちゃんと食べているのだろうかと思わずにはいられませんでした。

**最貧困の連鎖から抜け出すには教育しかありません。**

**学校を建てたからといって、貧困の子供たちが皆学校へ行けるわけではありません。**

そこからみ出してしまう最貧困にいる子ども達が学校へ通えるように、継続して見守る、まさしくこれが ASAP の仕事と痛感しました。



建築予定地を開墾する村人達



粗末な家が並びます



スーパーの袋が大事にかけてあります

# 平成23年度 通常総会のご報告

去る9月26日に多摩川幼稚園にて平成23年度の通常総会が開催され、平成22年度事業報告、収支決算、平成23年度事業計画、収支予算、認定NPO法人への認定申請を目指す事が承認されました。以下、事業報告、決算、事業計画、予算の概要です。

## 1 22年度 事業報告(事業の成果)

- ◇ 平成22年度はロク小学校、タットム小学校に対し、教科書・教具等の寄贈及び教員給与の補助を通し人材の確保と教育の質的向上を促しました。
- ◇ 学齢児童および家庭に対して、引き続き新入生への制服支給と「手作り卒業アルバム」の寄贈「マザー・ツー・マザー事業」等啓発事業を継続し就学率の向上を図りました。
- ◇ 保健衛生レベル向上のため、アンプール保健所に水道ポンプ1基を寄贈したほか、プノンペン郊外のコールタメイ小学校へ5教室の新校舎寄贈、タットム新校舎工事に着工しました。
- ◇ 「マザー・ツー・マザー事業」については朝日新聞に掲載されたことにより全国12の幼稚園、保育園の協力も得て支援者を増やすことが出来ました。
- ◇ 上記事業の遂行及びこれにかかる調査・評価のため、22年8月、23年2月の計2回支援ツアーを実施し、学生ボランティア事業については2月ツアー時に3名の学生によるドッジボール指導を行うことができました。
- ◇ 「カンボジア通信 vol.6,7」[プチ通信]の発行、ホームページの充実により、国内の支援基盤の充実を図りました。
- ◇ 認定NPO法人への申請については23年度認定をめどに準備をすすめました。

## 2 平成22年度 収支決算(概要) (平成22年7月1日から23年6月30日まで)

(単位:円)

<b>I 経常収入の部</b>		<b>IIIその他資金収入の部</b>	<b>0</b>
1 会費収入	1,932,000	<b>IVその他資金支出の部</b>	<b>0</b>
2 寄付金収入	3,371,574		
Mother to Mother 収入含む			
3 その他の収入	1,187		
<b>経常収入合計</b>	<b>5,304,761</b>		
<b>II 経常支出の部</b>			
1 事業費	7,216,645	<b>当期収支差額</b>	<b>-2,299,959</b>
(1)教育機関運営支援	6,544,469	<b>前期繰越収支差額</b>	<b>6,446,678</b>
(2)就学困難家庭支援	440,630	<b>次期繰越収支差額</b>	<b>4,146,719</b>
(3)広報・啓発・調査・連絡調整	111,896		
(4)現地事務所運営	119,650		
2 管理費	388,075		
<b>経常支出合計</b>	<b>7,604,720</b>		
<b>経常収支差額</b>	<b>-2,299,959</b>		



### 3 平成23年度 事業計画(事業の実施方針)

- ◇ 引き続きトロク小学校、タットム小学校に対し、教科書・教具等の支援及び教員給与の補助により通し人材の確保と教育の質的向上を促す一方、教育支援金の一部を教員個人から学校へと支給方法を変更し、学校運営の自立を促します。
- ◇ 学齢児童及び家庭に対しては引き続き、新入生への制服支給と卒業生への「卒業写真」の寄贈、「マザー・ツー・マザー事業」等児童・保護者への啓発事業を継続し就学率の向上を図ります。
- ◇ 「マザー・ツー・マザー事業」については、日本国内の販売の拡大・安定を図り、トロク小保護者へ活動を広げます。
- ◇ タットム小学校新校舎完成 (23年8月)
- ◇ 現在小学校のないシエムリアップ郊外コールタメイ村へ小学校校舎の寄贈を行います(24年)
- ◇ 学生ボランティア事業については、トロク小学校校舎補修作業およびコールタメイ小学校建築作業に協働する活動を目指します。
- ◇ 昨年度より進めている「認定NPO」申請準備は今年度中の認定を目指して引き続き行い、法人に対する寄付者、寄付金を増やし、財政基盤の安定をはかります。
- ◇ 広報誌の発行、ホームページの充実による広報・支援ツアーの実施等啓発事業を継続し、支援の効率性を高め、国内の支援基盤を強化します。

### 4 平成23年度収支予算(概要) (平成23年7月1日から24年6月30日まで)

(単位:円)

<b>I 経常収入の部</b>		<b>IIIその他資金収入の部</b>	0
1会費収入	720,000	<b>IVその他資金支出の部</b>	0
2寄付金収入	3,800,000		
(M to M 事業寄付含む)			
3その他の収入	1,000		
<b>経常収入合計</b>	<b>4,521,000</b>		
<b>II 経常支出の部</b>			
1 事業費	6,710,000	<b>当期収支差額</b>	<b>-2,909,000</b>
(1)教育機関運営支援	5,060,000	<b>前期繰越収支差額</b>	<b>4,146,719</b>
* 校舎の建設費を含む		<b>次期繰越収支差額</b>	<b>1,237,719</b>
(2)就学困難家庭支援	1,050,000		
(3)広報・啓発・調査・連絡調整	450,000		
(4)現地事務所運営	150,000		
2 管理費	720,000		
<b>経常支出合計</b>	<b>7,430,000</b>		
<b>経常収支差額</b>	<b>-2,909,000</b>		

## 5 会費改定について

A S A Pでは23年度中を目標に認定特定非営利活動法人への認定の手続きを進めています。一般の特定非営利活動法人（以下「NPO法人」）は所轄庁（内閣府または都道府県）から認証を受ける必要がありますが、認定特定非営利活動法人とはさらに一定の要件を満たす法人として国税庁長官の認定を受けているものをいいます。（以下認定NPO法人）認定NPO法人になることにより内部管理をよりしっかりすることが求められますが、社会からの信用も高まり、支援者は寄付金に対して税制上の優遇措置が受けられるようになります。（寄付金控除の対象になります）しかし、正会員の会費はこの寄付金控除の対象とらないため、認定に先行して正会員の会費額を引き下げる改定が総会で承認されました。正会員の皆さまには、できればこれまで通りの総額の納入をお願い申し上げます。

尚、認定の手続きが終わり次第、皆様にはその旨と寄付金控除の詳細を改めてご案内させていただきます。

## 22年度ご寄付いただいた方々です ありがとうございます

長谷川安年	平島康子	林秀雄	大森幹彦	(有) 松村商店
池田五郎	長谷川正	川辺悟子	岩下伴蔵	(株) 東京燃料林産
勝西光治	菅野ミヨ子	飯田ひろ子	加藤光子	(株) チャイルド社
細谷進	杉浦比登美	田澤淳	田野倉陽子	(株) 桃源堂
宮崎和夫	古谷良司	長谷川義年	染谷昌美	(有) I Q I
若槻康二	小林五月	田辺崇	土井智生	(株) 東京トヨペット秋川支店
千葉辰男	武田信夫	直井秀子	近藤英一	(学) 多摩川幼稚園
千葉妙子	吉田勝重	吉田泰輔	進藤晃	(学) 多摩川教育センター
松田行央	田辺多加子	井上巖尹	田村麻里	九十の会
勝西暉	山崎芙蓉	小島徳太郎	村野多恵子	いずみの会
斉藤勝	斉藤君代	狩野周吉	桜井敏子	欧八七の会
浜川喜亘	村井浩	戸田幸子	秋葉クニ	中国文化研究会
長谷川照代	竹下やす子	浜田章男	田野焼子	多摩川幼稚園募金
浜川明子	石井作一	安永邦子	菊池紀子	西武信用金庫秋川支店
大沼陽子	向山良子	渡辺新太	第13回訪問者	多摩信用金庫秋川支店
高木景子	清水和子	桜庭玲子	吉井岳彦	東京都私立幼稚園同友会
竹内たえ子	末宗千代子	清水和子	吉井文	子どもの森幼稚園 さかえ幼稚園
伊藤和美				調布白菊幼稚園 立華幼稚園
中野直明（若竹幼稚園）				東京多摩幼稚園 聖愛幼稚園
住本典之（常磐ヶ丘幼稚園）				矢の口幼稚園 明愛幼稚園
内野光裕（清瀬ゆりかご幼稚園）				八王子白百合幼稚園 日進幼稚園
土方崇（かしの木幼稚園）				東京ゆりかご幼稚園 藤幼稚園
杉田かつ子（明照幼稚園）				東村山しらぎく幼稚園

..... **編集後記** .....

初めて支援校を訪問してから気づけばもう5回！それだけに皆様に伝えたいことが次々出てきてカンボジア通信もつい長くなってしまいます。しかし、できるだけ活動内容を知って頂くのが私の務めと考えていますの、ご覧になっていただき、支援内容をご理解いただけたら嬉しいです。

実はスペースがなくて書けなかったことが一つあります。それは今回「音楽を知りたい」という先生達の希望をきいてトライした「音楽指導」についてです。音楽大学出身の私にとっては小さいときから身の周りであった西洋音楽ですが、カンボジアの先生たちにとっては違います。かなり準備をしたつもりでも、思いが空回りしてしまった部分もあり、ちょっと不完全燃焼。次の機会リベンジしようと決心して帰国しました。(誰か学校で弦楽器のアンサンブル等生の音楽演奏してくれないかな...) (編集 大沼 陽子)

**支援金寄付について**

ご寄付頂く会費又は支援金は下記口座に振り込みをお願い致します。

- \* 正会員… 年 20.000 円
- \* 賛助会員… 毎月 1.000 円 (年額 12000 円)
- \* その他支援金… 金額を問わず随時受け付けております



■郵便振替口座 00130-2-594647  
『NPOアジアの子供たちの就学を支援する会』

■西武信用金庫 秋川支店 033  
普通口座 1292601  
口座名 『NPO 法人アジアの子どもたちの就学を支援する会  
理事長 長谷川 安年 (ハセガワ ヤストシ)』

**\*注 同封の振込み用紙は振り込み料がかかりません。ご記入の上ご利用下さい**

**あきる野多摩川学園カンボジア校通信**

ASAP 会報 Vol. 8 2011.10

■発行 ※NPO 法人 アジアの子どもたちの就学を支援する会  
(省略 “ASAP” Asia School Attendance Partnership)

〒197-0825 東京都あきる野市雨間 429 番地

TEL 042-558-0218 (多摩川幼稚園内)

FAX 042-550-2467

メールアドレス [asap@tamagawa-kids.jp](mailto:asap@tamagawa-kids.jp)

ホームページ <http://www.tamagawa-kids.jp/asap/>

■発行人 長谷川 安年